
ユキ

下弦 鴉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ユキ

【コード】

N5363D

【作者名】

下弦 鴉

【あらすじ】

ユキについての詩集(?)みたいなものです。凍えた心にどうぞ。

イチ カナユキ

降り積もる雪を見ていると

僕はなんだか 寂しくなる

どうしても どうしても

居ない筈の君を

探してしまうから

分かってるんだよ 本当は

君がもういない事

分かってるんだ

そう 理解してたんだ

どうしようもない孤独の中で

雪だけは ずっと僕の隣にいる

冷たくて 脆くて

愛しくて

それなのに

どうしてこんなに 切ないんだろう

どうしてこんなに 寂しいんだろう

だから雪を見ていると

自然と涙が 溢れ出す

きっと 愛しい君の温度が

少しも感じられないから

隣がポツカリと 開いてしまったから……

二 アイユキノコイユキ

『アイユキ』

雪のように 純粹で

雪のように 繊細で

そういられたなら

今の私は 幸せだったかな？

もっと優しく もっと強く

人を愛する事 人を慈しむ事

そういう事が できたかな？

降り積もる雪は いずれ溶けてしまっけど

それまでに 幸せを届けてくれる

幸福を 与えてくれる

純白じゆんぱくという優しさで

そっと 私達を包んでくれる

そんな雪のように

私になれていたら

私が そうであったなら

もっと幸せに なれたでしょうか？

もっと ずっとずっと

綺麗な心のままで いられたでしょうか？

『コイユキ』

貴方はいつも

この白い世界の中で とても楽しそうに笑ってた

何が楽しいのか 私には分からない

だけど貴方は 楽しそうだった

白い世界の中で 妖精のように舞って

白い世界の中で 私は貴方に恋をした

何でそんなにも 純粹でいられるのか

何でそんなにも 少年のように笑っていられるのか
不思議だったから

恋しかったから

そんな貴方は 白い雪の世界で笑う

毎年毎年 雪が降るたびに

とっても楽しそうに

だから そんな貴方を見ていると

私も 取り戻せるんじゃないかって思った

少女のような 綺麗な笑顔を

あの遠い日のように 綺麗な顔で 綺麗な心で

だから ずっと私は貴方に恋をし続けます

ずっと 愛し続けられます

サン チカイユキノオモイユキ

『チカイユキ』

淡い雪は 君のようで

その脆さが 愛しくて

その儂さが 怖かった

もしかしたら

君がいなくなってしまうようで

もしかしたら

もう君に逢えないようで

その脆さ 儂さが恋しかった

僕の手には 愛ないてない

だけど

君を愛する事なら

出来る そんな気がしたんだ

だから

一つ言わせてくれないか？

絶対に僕が 君を護るよ

その約束だけは 絶対に違えない

だから

ずっと 傍にいてくれないか？

その 脆さのまままで

その 儂さのまままで

『オモイユキ』

この言葉が君に届く前に

この声は 白の世界へ消えるだろう

だって君には 届かない

そんな事 分かってたんだ

私が君に 手を伸ばしても

想いを 伝えても

決して君には 届かない

何でかそれくらい 知ってるよ

君の心は ココにはない

君の心は あの白しか見ていない

私なんて どうでもいい

そんな事 分かってたんだよ？

でも

でもね

もし 君に

この想いが伝わったら

もし 君に

この声が届いたら

きっと私は 変われる気がしたんだ

君の傍にいい

そんな存在になれるって

心から信じてた

そんな事 無理に決まってるのにね

馬鹿だよな？ 変だよな？

それでも 私は構わないんだ

きつと 君もそう思うでしょ？

この距離のままです

この世界の中で

このままです

ずっと 居ればいいんだよね

ヨン セツナユキノワライユキ

『セツナユキ』

『また明日』

その言葉が あんなに愛しく

あの言葉が あんなに恋しい事なんて

今まで あっただろうか

いつもは それが当たり前で

いつもは それが絶対だった

それが突然消えて

やっと気付いた気がする

あの言葉の 大切さに

脆さに……

どうして今まで

気付けなかったんだろう

どうして今まで

当たり前だなんて思っていたらたんだろう

どうして どうして……？

『また明日』

その一言が聞けないだけで

何でこんなにも 苦しいんだろう

あの一言が聞けないだけで

どうしてこんなにも 切ないんだろう

もう聞えない 『また明日』

もう聞く事のできない 『また明日』

そんな言葉を もう一度だけ

あと 一度だけ

聞かせて欲しいと

望んではいけないだろうか……

『ワライユキ』

笑顔でいよう

ずっと 笑っていよう

そう思ったのに

いざ 君の去って行く背中を見ると

涙が込み上げ 止まらないよ

約束したのに

もう 泣かないと

誓ったはずなのに

もう 悲しまないと

なのに何故 また泣いているんだろう

止まらない涙は

どうやって止めればいいんだろう

約束を 誓いを破らないために

どうやって この涙を止めればいいんだろう

破る訳にはいかないんだ

あの白さに 約束したから

あの純粹さに 誓いをたてたから

だから

私は護らないと いけないんだ

きつと帰ってくる と

君は約束してくれたから

優しく 優しく雪を抱いて

君は そう約束してくれたから

だから 私も護らなくちゃいけない

笑って君を見送る

それを 護らなくちゃいけない

だから 無理してでも笑ったんだ

汚い顔でもいいから 笑ったんだ

約束したから 誓ったから

あの綺麗な雪の日に

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5363d/>

ユキ

2010年10月10日04時37分発行